

<教育目標>



英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに

新しい<sup>ま</sup>都会<sup>ち</sup>に (中野中だより)

平成 29 年 4 月 7 日発行  
No. 1 校長 矢口 仁

精励の志 つねに — 自己を高める — 校長 矢口 仁

さまざまのこと思い出す桜かな 松尾芭蕉

桜の花が咲き誇り、春本番です。平成 29 年度は、153 名の新入生を迎え、全校生徒 457 名でスタートをきりました。新しいクラス・クラスメート・担任…と新たな出会いの中で気持ちを一新し、目標をもって自己の成長を目指してほしいと思います。



本校の教育目標は「英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに」です。この目標をベースに教育活動を推進しています。その「精励」ですが、「力の限りを尽くして勉学や仕事などに励むこと」と辞書にあります。本校では、授業・学校行事・部活動などで、自分にできることを精一杯行い、心も体も豊かに成長させていってほしいという願いが込められた目標となっています。

さて、私は春休みに直木賞を受賞した「蜜蜂と遠雷」(恩田 陸著)を読みました。国際ピアノコンクールへの登竜門となるコンクールで入賞を目指す、年齢も境遇も全く違う 4 名のピアニストが中心の話です。コンクールに臨む心理の微妙な変化や人間関係のおもしろさ、また審査する側の人間模様などが精緻な文体で描かれています。読み進んでいくと、ショパンやドビュッシーのピアノ曲を聞きたくなる本です。

その中に「ロマンティックな音は、多分に余力が必要だと分かってきた。よけいな音を立てないためには、筋力がある。足音をさせないためには、足の力をぬくことはできない。ロマンティックな音を出すためには、強靱なパワーがある。肉体的にも精神的にも、だ。」という文章が心にとまりました。

「ロマンティックな音」と「人間性」を比較するのはおかしいかもしれませんが、人が相手への思いやりをもち、気を配ることができるようになるには、その人に大きな力やゆとりが必要です。人間としての器が大きくなると、周囲の人に対して優しい心をもつことができ、安らぎを与えられるようになるのではないのでしょうか。小説の「ピアノでロマンティックな音をだすためには、肉体的にも精神的にもパワーがいるのだ。」という部分と共通するものがあるのではないかと感じました。

学習だけでなく、様々な分野にチャレンジし、精神的にも身体的にもバランスよく力を高め、周囲の人によい影響を与えられるような成長を望みます。そのために、「精励の志」を常にもち、この一年間を過ごしていってほしいと思います。